

地域に芽吹け「花とみどり」を 育む豊かな心

代表者 西坂 唯 (農学部応用生物科学科4年)

1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、花育活動について自ら学び、大学生を対象とした花育を
実践し、その成果を地域の花育活動に発展させるというものです。

2. 実施期間 (実施日)

平成23年6月1日 から 平成23年12月31日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業を通して、学生に花と触れ合う機会を設け、今まで以上に花に
関心を示してもらえたという結果を得ることができました。また、フラワーハートセラ
ピストの先生である井上真弓先生をお呼びして実際に学生に体験してもらったところ、
花には多くの参加者の心を癒す効果があるということが実験前と実験後に実施した
POMSによりわかりました。

花卉生産者の石原和昭さんと地域の方々のご協力によって、小学生とその親御さんと
実際に生花店へ出荷している花がどのように栽培されているかを見学させていただき、
設備や季節変化への対応の難しさを直に教わることができました。また小学生約10名と
共に自由にフラワーアレンジメントを行い、花を通じて地域の方々と触れ合う機会を設
けることもできました。私たち自身も今まで以上に花に興味を持ち、参加者の方々と共
に楽しんでプロジェクトを実行することができました。



(フラワーアレンジメントの作業風景)

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、農学部学生の希望者を募り、フラワーアレンジメントを行ったことで、参加した学生が前よりも明るい表情になっていたことが印象的でした。この事業により、農学部を活性化できたと思います。

地域の小学生に呼びかけ実行したことで、学校では経験できない実際の生花業の現場を見学にいたり、花と触れ合ったりする機会を設けたことで、地域の活性化に役立てたと思います。保護者の方々にも「楽しかった」などの声をかけていただき、私たちも大変うれしかったです。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

花と触れ合う機会を作ったことにより、たくさんの方々との出会い、コミュニケーションの場をふやすことが出来ました。また、何気なく周囲にあふれている花にも目を向けるようになり、花の美しさを改めて感じ、心に余裕を持って日々を過ごせるようになりました。

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

自分の研究している以外の花の説明が不十分だったこともあったので、しっかり予習して望むべきでした。また、もっと分かりやすく説明出来たところもあったと思うので、相手の立場に立ち思考するスキルを養うべきだと感じました。

私たちの周囲には植物があふれているが、それに目を向けている人はあまり多くありません。しかし知らず知らずのうちに植物に癒されているのは確かであり、四季折々の花を楽しむのは日本人の心として大切にし、今後も花と触れ合う機会を設けたいと思います。

7. 実施メンバー

代表者	西坂 唯	(農学部4年)		
構成員	橋本 千明	(農学部4年)	森下 權	(農学部3年)
	細羽 那未	(農学部4年)	安河内 程子	(農学部3年)
	管 マリエ	(農学部4年)	日下 文房	(農学部3年)
	北川 友佳梨	(農学部4年)	勝 雄一郎	(農学部3年)